

一茶ゆかりの里四季の俳句会

選者 高山俳壇 高野 悠子 先生

一般の部（令和五年十月〜十二月分）

特選天 秋空の山の向かふに山また山 香川県 合田 庸太郎

さわやかに澄みきった空、山の向かふに山また山とは正に信州の風景です。スケールの大きな句。

特選地 新米を両手にすくふ嬉しきよ 長野市 田辺 海樹

豊作だった今年米を両手ですくった感触が一年間の苦勞も喜びとなった様子が見えてくる。

特選人 一椀の中に故郷雑煮炊く 埼玉県 小林 美峰

雑煮は土地によってさまざまである。作者は幼い頃食べた具材で雑煮を炊いたのであろう。上五中七に郷愁を感じる。

入選 白鳥の夢見る首をたたみけり 群馬県 川野 忠夫

入選 月白やたった一人の秘湯の湯 群馬県 竹湊 洋子

入選 照紅葉遮るものなかりけり 群馬県 宮崎 美智子

入選 枯木立越しに浅間の銀屏風 群馬県 岡本 政彦

入選 寄せ書と仏画のカフェ小鳥来る 群馬県 仙田 美名代

入選 山紅葉迷い迷いて一茶館 山梨県 阿部 照美

入選 ふかふかの芝の絨毯秋深む 高山村 吉田 千恵子